

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
190	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Delirium in a sub-intensive care unit for the elderly: occurrence and risk factors. 高齢者の Sub-Intensive Care Unit における譫妄：出現頻度とリスク因子	
執筆者	
Ranhoff AH, Rozzini R, Sabatini T, Cassinadri A, Boffelli S, Trabucchi M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Aging Clin Exp Res. 2006 Oct;18(5):440-5.	
キーワード	
急性期治療、譫妄、高齢者、Sub-Intensive Care Unit	
要 旨	
<p>背景：</p> <p>譫妄は高齢者の入院患者のありふれた合併症の一つである。これまでの報告では譫妄は高齢者の入院時に 10-20% でみられ、新たに入院中に 18-30% に発症する。65 歳以上の高齢者では ICU においては極めて譫妄は高度に見られ 70% にも達する。6 年までに高齢者急性期ケアモデルがセットアップされ、4 床が SICU になった。SICU は重症高齢者病床で、バイタルサインの頻回のモニターや集中治療を行い、急性期病床より重症な呼吸不全や心疾患、脳卒中などを対象とする、ICU と一般病棟との中間に位置する治療を行う治療ユニットである。本研究はこの新しい治療ユニットである Sub-Intensive Care Unit(SICU)における譫妄のリスク因子と出現頻度を明らかにすることである。</p> <p>方法：</p> <p>一般病院の老人病棟内の 4 床の SICU に入院した 60 歳以上の 401 件について前向き観察研究を行った。譫妄については Confusion Assessment Method(CAM)を用いて入院時と SICU 滞在時で評価した。入院 2 週間前の ADL、IADL の障害を身体障害がある者、退院時の Mini mental state examination(MMSE)が 18 以下を認知症がある者とした。</p> <p>結果：</p> <p>譫妄は 117 名(29.2%)に見られた。うち 62 名(15.5%)は入院時に譫妄で、55 名は SICU 入院中に譫妄になった。譫妄は身体障害、認知症がない者が 19 名(11.4%)、身体障害がある者が 28 名(24.1%)、認知症がある者が 70 名(58.4%)であった。入院前発症は身体障害、認知症がない者、身体障害がある者、認知症がある者でそれぞれ 8(4.8%)、11(9.5%)、43(36.1%)、入院後発症はそれぞれ 11(6.6%)、17(14.7%)、27(22.7%)であった。多量飲酒者、7 つ以上の薬を飲んでいる者、尿路カテーテル使用者はそれぞれ独立して譫妄のリスクであった。</p> <p>結論：</p> <p>譫妄は SICU でしばしば発症する。認知症のある者では発症のリスクが高い。高齢者は入院時に譫妄になりやすい傾向にあるが、認知症がなくても、リスクは低くなるが、SICU に入院中には譫妄になりやすい。</p>	